

第二次安芸太田町長期総合計画第 5 回審議会の主な意見

◆日 時 令和 2 年 3 月 3 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 30

◆場 所 本庁東館 2 階大集会室

◆参加者 別紙名簿のとおり。

◆内 容

1. 開会…伊藤会長あいさつ

(1) 会議等の開催状況について—資料 7

(2) 長期総合計画後期基本計画 (案) について—資料 1 資料 2 資料 3 資料 4

○ファンクラブ会員数が重要とされていたが、目標値が 300 人では少ないのではないか。

○複数の課でプロジェクトを進める際には、どこが主体性をもって進めるのか、責任者等の所在を明確にするべき。そのほうが町民も参画しやすい。

○外部評価を組み入れるということは先進的な取り組みだと思う。逆に言えば先進的だからこそ実際やる役場の人たちが嫌がる部分もあるのではないかと思う。この評価を誰が責任をもって進めていくのは企画課とあってよいか。

→企画課が責任をもって進めていきます。

○ヘルスツーリズム事業の活動指標で営業に 25 回行くとあるが何社から契約がとれたかが実際のところで実際にやるだけやったがその効果といったところがわからないのでは意味がないと思っている。PDCA を回していく際にアウトプット指数をしっかりと出して実施をするようお願いしたい。

○生物対応性、希少な動植物についてだが、どうしても環境保全の中でアダプト団体を増やすというのはあまり意味がないと思っている。何を守るというのをきちんと決めて、それがどうなっていくかというモニタリングをしていく必要がある。

○個別施策の 30 の、成果指標が、入込観光客数になっている。観光を考えるとやはり観光消費額というのが重要だと思う。本町の観光消費額は 10 年前より半減している。今回のアンケート評価の中で一番改善を要求されたのが観光分野だったと思う。観光客が減ったというよりは観光消費額が下がったということで事業者は困っていると思う。今更変えられないかもしれないが、観光客数ではなく観光消費額の指数がいるのではないかと思う。しんどい分野ではあるがぜひ入れてほしい。

○安芸太田町はいろんなツーリズムがあってスポーツツーリズムやネイチャーツアーなど様々な事業を事業者が頑張っている。ヘルスツーリズムは地域商社でやっているの
で、ヘルスツーリズム以外の観光事業者に届くような施策の記載があると良い。

○施策 31、ここでは地域商社あきおおたの観光地域づくり法人として観光庁の方から認められたうえで活動を長期総合計画後期 5 年の中でやっていくことになる。その中で多くの観光事業者、基本的には町内全ての観光事業者にこの活動に加わっていただく。よってこの中に成果指標として含めた DMO 組織が支援をおこなった新商品の売上高及び参加数というのが先ほど指摘のあったような全てのツーリズムが入っている。この中には今までのヘルスツーリズムの中で言っていた森林セラピーや教育民泊というところも含まれるし、これから活動していく様々なツーリズムやエコツーリズムなど含めていく。

○ファンクラブの存在自体を知らなかった。町民に対する PR が足りていない。

○人口の推移のところで、去年の 10 月 1 日の数字とされているが、この 3 月でまた動きがある、高校卒業、大学卒業とか就職や転勤的なものがあると思う。3 月末を基準されてはどうか

→現状 10 月 1 日が国勢調査を基準にして人口を測り、推移をみている。毎月町でも人口推移はとっているの、4 月 1 日の時点でどのように人が動いているかも抑えながら施策の評価と推移をみていきたいと考えている。

○この町に来て、遊びに来て、といいながらも、安芸太田に何があるのか、町外に対する PR が足りていない、また町民にも町外の人が訪れたいくなるような魅力がないと感じている。もう少し町の魅力を掘り下げ、町民をはじめ町外の人にも PR をしてほしいと思っている。

○地域商社を立ち上げているが、何の仕事をしているのか、全然目に見えてこない。その辺のアピールも少なすぎると思っている。

○そもそも町民が最初の町のファンであるということ、核となるネットワークを本会議でも広げていくということ、まずは町民の方々から発信していく、というのが基本となる。商品開発などは、個人でも高校生、大学等と連携しながら取り組むという表現になっている。町としては機会づくり、場を提供するというところで、実際には、地域商社や、それぞれの企業、団体の取り組みになっていくのだろうと思う。

○安芸太田病院の院長として、地域で安心して暮らせる地域医療サービスを提供します、というところで、医療事業者の確保事業に広島大学に派遣のお願いに行った訪問回数を活動指標としているが、それより昨年大きく動いた安芸太田町と広島市とが連携して、安佐市民病院と安芸太田病院と医師の交流もしくは顔の見える関係をつくっている。色々な面で連携がすすみ、安心できる環境が整っていることをアピールできる活動指標としたい。

(3) パブリックコメント意見集約について—資料 5

○今日話を聞いてとても安心した。送られてきた資料だけだと住民がどういうふうに関わるのかということがわかりきらなかった、事務局の話を聞いて、住民がその指標の指数、評価につながるということを聞いたのでとても安心している。ただ、今資料で探していたが、関係する諸団体のところに、ある特定の名前が書かれていて、コミュニティのところに消防団だけという形になっていた。できればわくわくフェスタみたいな民間団体も含むような書き方になっていたら他のこれを見た方の住民や団体も、自分たちはここで、というふうに住民団体もこの施策に共にやっていけるような表現になっていると感じられるので、そこをお願いしたい。

○とても良い計画になっていると思う。施策評価の実施に向けてぜひとも頑張っていたきたい。

○今回加計高校の倍率がかなり上がっているのが驚いている。生徒や先生方の努力の賜物であると感じているし、市内の高校からでもなかなか合格しない大学にも加計高校からは合格しているという情報もはいつている。

○病院のことだが、小児科の先生が町内にいることは、Uターン、Iターンを希望する方に対して大きな判断材料になると思う。来ていただくのが難しいのであれば、テレビ電話を通して子どもの状況を診察、状況を見ていただく方法もあるかなと思う。

○ネット回線を通じた医療が医療として認められるかどうかは議論されている段階である。

○学校教育にかかわって、前回のこの場でも数学の習熟度が課題であるとの指摘があったが、成果指標の中に入っているなので、ぜひともここは注視していきたいと強く思っている。

○加計高校の件だが、今年度は町内出身者が定員の40の6割ぐらいになると思う。地

元の子たちも加計高校の魅力というものを充分理解をしたうえで、進路選択しているという現状がある。

○また、地域懇談会に3名の中学生女子が参加し、その中で自分たちがどのようにこれからふるさとに貢献していきたいかという話をしたかということ保護者から聞いた。そういうふうにも子ども達も自分たちのふるさとをどうにかしたいという持ちをもって日々生活し、そして自分の夢をつくっているという状況ができつつある、これも一つの大きな成果であると感じている。

○施策の30番のヘルスツーリズム事業の推進について、活動指標として営業訪問回数や誘致回数などとしているが、これが実際にどういう成果に結びついているのかを重点的に見ながらやる必要がある。特に町民の皆さんに協力していただきながらやらないとできない事業が多い、町の方々に協力していただくことがいかにこの町の成果につながるのかというのが町の皆さんにわかりやすく伝えていきたい。

○定住促進で外部から子育て世代が移住してきた際には、町内に小児科がなく不安になると思うが安芸太田病院でちょっとしたことなら見てもらえるということを、伝えてもらえたらと思った。

○今現在住んでいる子育て世代に対して、満足はしているがもう少しこうあってほしいという願いもあるのでそのあたりの意見ももう一度ひろってもらいたい。

○行政が定住PRをすると固くなるので、わくわくフェスタの実行委員会等もっと子育て世代と近い距離間でPRできることを検討されたらと思う。

○縁結びという事業の応援がいいと思う。農協ではいろんなところで縁結びのパーティーをやっている。ぜひ協力して安芸太田町の地域の活性化に寄与していきたい。

○観光については交流人口をどうやって関係人口につなげるか、関係人口を定住人口につなげるかということで、関係人口の考え方を取り入れたのは良いことだと思う。

○成果指標・活動指標の見直し基準については、若干提言も含めてだが、厳密に言葉の定義とそれぞれのKPIの見直し基準を決める必要があると思う。

○各種プロジェクトは副町長がリードすることになると思うが、進めていくにあたって、構成されているそれぞれの課あるいは人の役割、これは明確にしておくべきだと思う。

○正式には地域商社あきおおた推進協議会を代表している立場である。この推進協議会というのは現在準備中だが、この町の主要な事業者に協力してもらい地域事業者が中心になって進めていく。町指導のもとに進める行政施策の受け皿、これを効率よく進めるための事業者の集まりと考えている。

今回この策定にあたって、審議の場に参加させてもらい自分としてはわくわくしている。どうやって成果を上げていこうかということ。地域商社について先ほど意見をもらったが、PRの仕方についてご指摘をいただいたが、実はまだまだPRどころかやっていけないといけないことができていない段階。それをどれだけ進めるかということを経営総合計画の中にしっかりと今回落とし込んでいたと思うので、推進協議会のメンバーの方々を上手く巻き込むことを責任もってやっていきたい。

○町民に元気がない。町が盛り上がるように努力・協力を惜しまず全力で取組むつもり、せっかくいい計画がまとまったので、後はどれだけ本気で実行し成果にこだわる。ここは注視していきたいと思う

○高齢の方は高齢の方なりに心のつながりを私たちと持ちながら生活している。それなりに不安もなく過ごさせてもらっているのではないかと。町の施策も割合充実しているし、その分は満足しているのではないかと私の範囲ではそう思っている。

○情報社会、これからはすごく大切だが、町の状況等についてパソコンを通じて情報を得ている方はどのくらいいるのか疑問に感じる。高速ブロードバンドの加入者率が45%とあるが、うちも息子が入っているが、実際加入してそんなに活用してないようなことも言っていた。ICTの活用方法も含めて、これからの方にどんどん進めて考えてもらいたいと思っている。

○町民一人一人がこのプロジェクトの構成員である。では一人一人がいった何をすればいいのか、というのがこれを読み終えた時にわかるのか。私は私の立場で一体何をすればいいのか、一人一人が明確に答えをもらう計画でないと構成員にはなれないと思う。読むと体温が伝わってくるようなものにしてもらいたい。

○商工会と兼ねてだが我々産業振興について色々な意見をICTであるとか、事業継承とか網羅された計画になっていると思う。この目標が現実化するような努力をいてもらいたい。

○これから事務局の大きな課題はこれをいかにして皆にやる気をださせるか、そこにエネルギーをかけないといけないと思っている。今回幸いにも、国も取り上げているようなSDGsとかICTの問題とか、ソサイティ5.0などの、新たな切り口、そこに新たな思考が生まれると思っている。どんどん活用して皆さんと一緒にやっていくようなことを考えていただきたい。

○産業について、いいことは書いてあるが、これが絵に描いた餅にならないように頑張ってもらいたい。特産品の開発とかあるが、どうやって取り組むのか明確ではない。中身というより人がいないのが現実。林業にしてもそうだが、誰が中心になってやるのか、誰が本気で取り組みできるのか、というのが一番心配。これは企画がすべて作ったと思うが、これが全課において同意できるようなものでないと動かないと思う。

○価値観や社会行動が変わる中で、厳しい自治体の地域間競争をしているが、選ばれる町、安芸太田町というのがどういう形で実現できるかという視点を持ちその精度を高めたいけるような計画が充実すればいい。

○外国人労働者等の受け入れの問題、あるいは異文化の交流の問題をこれからきたるべく安芸太田町がどう取り組むか、という記述がなかったかという思いがする。

○徹底的に町の後継者というものをいろんな分野の中で後継ぎをつくっていくという覚悟が伝わってこない。特に産業関係では創業や企業という分野の中では徹底的にその促進と強化を図らないと持続可能な町というのが実現できないのではないか。

○いわゆる貧困層といわれる層、我々の町も一度貧困層に入ってくるとなかなか立ち上がるチャンスがない。日本社会全体でいえることだとは思いますが、貧困層いわゆる弱者の皆さん、低収入の層あたりへの配慮を徹底的にこの町では他の町とは差別化した形の中で施策に展開していくことになる、と、選ばれる町になる可能性が高い。

○計画を転がしていくのは、住んでいる住民の方々、関係団体、それぞれの立場から役割を果たしていかなければいけないと思っている。むしろ重要なのはこの計画と実際の現場をつなぐ役割、挽回する役割が重要になってくる。一点目は地域懇談会、これは町として行う地域懇談会もあるし、議会が開く懇談会等も可能だと思う。二点目は本宮委員のところでやっている読み解く会、普及、自発的に検討していく、それを次の行動に移すというような取り組みが重要だと思う。三点目、これは、重要だが、ここに集まっている方々はいわば町のキーパーソンにあたる方々かと思う。つなぎ手として、伝道師

というか、趣旨を踏まえたうえでどう転がしていくか、批判的に評価点検していくことが重要になってくると思うので今後ともそういう評価、点検作業にも、主体的に参画願いたいと思う。

○本当に皆さんが言われるように、この案というものが絵にかいた餅ではなく実行していくための第一歩でないといけないと思っている。

○前期の基本計画の策定の段階でジビエ肉をやっていたらどうか、この町も鳥獣被害があるから、ということで提案した。だけどその時の町の行政側の言葉、答えとしては、僕らがそれを考えてやっていくから心配しないでくれ、という言葉だったらしい。しかし今現在この町においてジビエのことは検討もされていなし実行もされていない。教育に関して言うと、数学のことにに関して、テストの結果をみると相も変わらず何年か前と同じ県内で下位になっている。これは結果として見えることなのでその結果を反省しながら前に進むということを確実に実行していかないと U ターンする方も I ターンする方もいないのではないかと。過去の実行例として伝えたいと思う。

(4) 今後のスケジュールについて —資料 6

○今日で審議会は最後となる。今後各委員さんからの意見を反映させ最終的には会長と協議し、最終決定をしたいがよろしいか

○異議なし（全員）